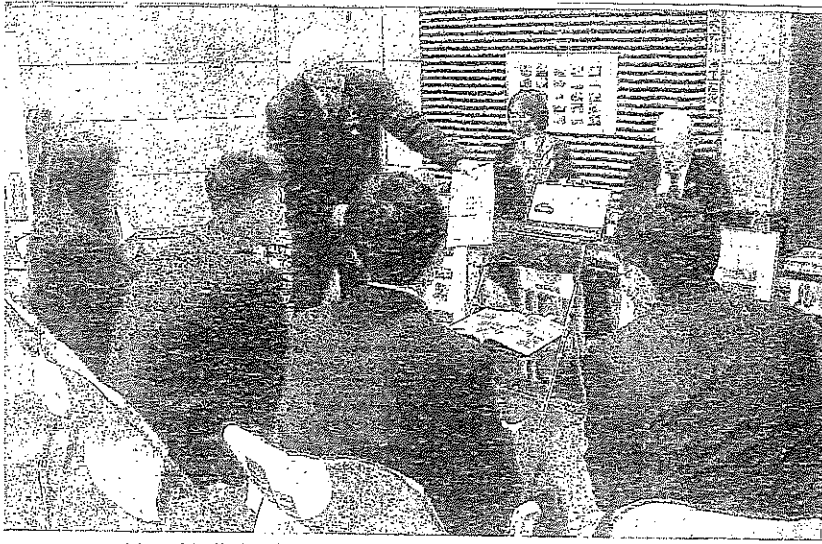


J1鹿島就職橋渡し

鹿嶋 地元27社と高校生

サッカー・J1鹿島アントラーズFCによる高校生を対象にした合同企業説明会が5月28日、鹿嶋市神向寺のカシマススポーツセンターで開かれた。鹿行地域を中心とした7校から2、3年生約170人が参加。建設や物流、製造など多様な業種の地元企業に理解を深め、就職活動への意識を新たにしたい。



地元就職を希望する高校生を対象にした鹿島アントラーズFCの合同企業説明会＝鹿嶋市神向寺

説明会は地元企業と高校生・生徒の接点を生み出し地域発展につなげるなどが目的で、今回が5回目。同FCと共に地域創生に取り組む「アントラーズビジネスクラブ」に加盟する27社がブースを設けた。

生徒たちは参加企業の中から8社を選び、1社10分ずつ説明を受けた。企業側は業務内容や勤務形態だけでなく社員食堂のメニューといった福利厚生も含め、さまざまな角度から自社の魅力を伝えた。

公共施設や飲食店など地域の身近な建物の施工実績について説明した高正建設（鹿嶋市）の高橋文男会長は「企業説明というより、会社の『人柄』を紹介した。生徒たちが地元で愛着を持つことで、定住につながれば」と願いを語った。

最後の約30分間はフリータイムとなり、生徒たちは関心を持った企業のブースを再訪。より詳細な説明に熱心に耳を傾けた。

県内で製造業への就職を目指しているという県立玉造工高3年、中村一平さん（17）は「3交代制の勤務など初めて知ることもあった。仕事のやりがいと直接聞いたのもよかった」と参考になった様子。県立潮来

高3年、桜井悠太さん（17）は「どの企業も説明が上手だった。自分が仕事をするときも、コミュニケーションを大事にしたい」と話していた。

同FCセールズグループアカウントセールsteam

の朝倉昂リッダーは「企業と学校のハブの役割を果たすのは、地域のクラブとしてやらなければならない」と。就職や雇用は地域の人口増や発展につながる」と狙いを語った。

（村田知宏）

R17.6.4. (茨城新聞 16面)